

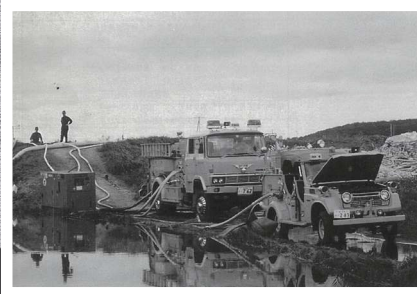
そのとき、どこへ逃げますか？

～避難を今、考える～

斜里町は地震・津波・洪水と、複数の災害リスクを抱える町です。
「いつか」ではなく、近い未来で訪れるかもしれない災害を、今考えます。

1992年9月斜里町を襲った台風17号。それと北海道付近に停滞した秋雨前線の影響で、3日間の雨量は200ミリを超えました。市街地を中心に道路、文光町や新光町、青葉町などの住宅地が冠水し、48世帯が公民館に避難するなど緊迫した状態に。道路の決壊、農地の浸水、肥料や農薬の流出、農機具や車両の破損、ふ化場のマスの親魚が酸欠死するなど大きな被害に見舞われました。

台風17号による冠水被害（文光町 1992年）



それぞれの 災害の特徴は？

災害の種類によって、求められる行動はまったく異なります。
地震・津波は「発生した瞬間」の判断が、洪水は「発生する前」の準備が、命を左右します。

地震



北海道東方沖地震による被害（光陽町 1994年）

地震は予告なく、突然発生します。揺れを感じた瞬間から身を守る行動が必要です。まず頭を守り、揺れが収まったら速やかに屋外へ。

津波のサインは大きな揺れ。揺れを感じたら、すぐに避難しましょう。揺れがなくても津波警報を見聞きしたら、すぐに避難する必要があります。

高台を含む、避難場所を確認しよう！

洪水



台風17号による冠水被害（新光町 1992年）

洪水は、大雨や低気圧など気象情報をもとに事前に備えられる災害です。「まだ大丈夫」という油断が逃げるタイミングを遅らせませす。

特に夜間は状況の把握が難しくなるため、明るいうちに迷わず行動することが大切です。

降水時の浸水想定を知っておこう！

自分自身の逃げるを考える

避難「場所」を考えたときの チェックポイント

- 防災ハザードマップで自宅・学校・職場の災害リスクを確認してあるか
- 災害ごとに適した避難場所を知っているか
- 家族が離れているときの避難場所を共有しているか

たとえば、こんな場所へ避難を

- ▼ 安全な場所に住んでいて、身を寄せられる親戚や知人の家
- ▼ 一時避難場所に指定されている学校、公園、公民館など

避難「経路」を考えたときの チェックポイント

- 安全に通ることができる道か
- 複数のルートを考えているか
- 夜や雨の日でも通ることができるか

災害時には危険な場所

- ▼ 橋や狭い道路
→ 建物や道路の崩壊により通行できなくなる危険
- ▼ ブロック塀、自動販売機、崖のある場所
→ 倒れてきたり崩れたりして下敷きになる危険
- ▼ 坂道、階段、段差、排水路や側溝
→ 転倒やふたの外れたマンホールに転落する危険

話してみよう

避難先は学校や公民館など町が指定している避難場所だけではありません。親戚や知人はもちろん、近所の人や自治会、社会福祉施設などでも「もしものときどうする？」と話し合ってみませんか。

- ▼ 避難場所は？
- ▼ どうやってそこまで行く？
- ▼ 避難経路に危険なものはある？

確認しておきたい防災情報

▼ 緊急速報メール

地震・津波・避難情報などが対象エリアの携帯電話に届きます。受信設定を確認しておきましょう。

▼ 斜里町 公式 LINE

避難情報や災害情報をいち早くお届けします。まだ登録していない方はぜひ。

▼ ほっとメール@しゃり

外国語にも対応しています。外国籍の方にもお知らせください。

▼ 気象庁 | 斜里町防災情報 (キキクル)

町の気象情報を確認できるほか、キキクルでは土砂災害、浸水害、洪水警報それぞれの危険度を地図上で確認することができます。

▼ 北海道防災ポータル

道内の避難情報や気象情報をまとめて確認できます。周辺地域の状況を把握し、自身の避難判断に役立てましょう。

ブックマークしておくと、いざというときの情報収集に役立ちます



最新版をお持ちですか？

斜里町民に配布している防災ハザードマップには、各種防災に備えるための情報や、避難時の持ち物リストなどが掲載。最新版は2024年度版です。町役場でも配布しているので、改めて確認しましょう。

災害ごとの逃げるを知る

地震 津波

警報なしに発生する、突発的な災害

	地震	津波
発生直後	<ul style="list-style-type: none"> ・座布団などで頭を保護する ・大きな揺れに備えて、テーブルや机の下などで身の安全を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れを感じたらすぐ高台や津波避難ビルへ ・川や海のそばを避け、より高い場所を目指して避難
数分以内	<ul style="list-style-type: none"> ・火元、家族の安全を確認 ・靴を履いて、避難経路を確保 ・近所の人と助け合い安全を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波警報が出たら揺れを感じずとも、すぐに避難 ・原則、車は使わず徒歩で ・近所の人へ声をかけながら避難
避難後	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオなどで公的機関による正しい情報を入手 ・倒壊のおそれのある家に近づかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオなどで公的機関による正しい情報を入手 ・警報が解除されるまで家には戻らない

焦らず行動！

揺れがおさまったら
家族の安全や火元の確認を。

ためらわず避難！

すぐに高台や津波避難ビルへ。

洪水

警報で事前にわかる、予測できる災害

警戒レベル
1~2

〈大雨・洪水・高潮注意報〉

天気予報・防災ハザードマップで自宅周辺リスクを再確認。非常持ち出し袋の準備を。状況が変化することもあるため、早めの情報収集が余裕ある行動につながります。

警戒レベル
3

〈大雨警報〉

高齢者・障がい者はこの段階で避難開始。ラジオ・スマホで情報収集しながら行動しましょう。それ以外の人も危険を感じたら自主的に避難を。夜間・悪天候になる前に動くことが、安全な避難につながります。

警戒レベル
4~5

レベル4：〈避難指示発令〉 レベル5：〈緊急安全確保〉

警戒レベル4で、全員が直ちに避難。夜間・増水中の移動は危険。早めの行動が命を救います。レベル5になってからでは安全な避難が困難に。上の階に移動するなど、その場でできる命を守る行動が必要です。

慌てて行動するのではなく落ち着いて。情報を受け取り、的確な判断・行動を！